

## 欲望のおいしい!

### 「禁断のレシピ」 枝元なほみ、多賀正子(著) 596

「おいしいものが食べたい!」ただそれだけの思いを遂げるため、気にはしていない高カロリーで魅惑的な料理の数々。

超ボリュームな肉、ピーナッツバターをまるっと使い切った超ジャンククッキー、食べきったら死んでしまいそうな超高カロリーなチョコレートケーキなどなど。死ぬまでに、一度は挑戦してみたいレシピがもりだくさんです。

### 「鮓 12ヶ月」

石丸久尊ほか(著) 596.2

職人の技が光る握り鮓。寿司から感じる季節感。きらりと輝く青魚、宝石のようないくら、みんな大好きまぐろのにぎり。回転寿司も良いけれど、たまには回っていないお鮓が食べたい!

# おいしい本を召し上がれ!

読んでだけでおなかがぎゅるぎゅる、よだれが出てきそうなグルメ本。「ああ、この料理を食べてみたい!」という想いがむくむくと湧いてくる魅惑の本。写真やイラスト、文章からただよおいしそうな匂い。誘惑の仕方は様々。今回は「おいしい本」をご紹介します。

## 写真のおいしい!

### 「みんなの機内食」

機内食ドットコム RIKIYA(著) 596.4

飛行機に乗る楽しみ。それは移動先の目的に思いを馳せること...もちろんありますが、機内で出てくるお食事も心ときめかせる要素のひとつ。ほぼほぼ自分で選べないメニューに、何が出てくるのかのドキドキ感。当たりもあればはずれもある(悲)。そんな悲喜こもごもな機内食の数々を一挙掲載。航空会社によってそれぞれ個性があっておもしろいですよ。

### 「パンケーキ&エッグベネディクト」

若山耀子(著) 596

一時期大ブームとなり今ではすっかり定番になったパンケーキとエッグベネディクト。彩り豊かで食欲をそそります。

## 文字のおいしい!

### 「ひさしぶりの海苔弁」

平松洋子(著) 596

おいしそうなエッセイを書かせたら日本一! ? 食べ物への愛情、日々の食事を楽しんでいる様子がひしひしと伝わってくる平松洋子さんのエッセイを読んでいると食欲がむくむく。

おいしいものを食べるってなんて幸せなこと! どこか懐かしい、ほんわか気分になれますよ。

### 「ラストレシピ」

田中経一(著) Fタナ

死ぬ前に食べたい料理を再現する「最後の料理請負人」の佐々木。第二次世界大戦中の満州で、満漢全席をこえる究極の日本料理を作るよう命じられた直太郎。一度食べたものの味を忘れない麒麟の舌を持つ、時代を超えた二人の天才料理人の物語。「料理の鉄人」の総合演出家で何百人もの一流料理人と交流し、料理ができる過程を見つけてきた著者だからこそ描ける料理の数々。巻末の春夏秋冬 200品を越える創作料理のメニューリストは圧巻です。

## おいしい! は作れる

### 「愛しの油揚げ」

高橋良枝(著) 596.3

煮て焼いて、和えたり、混ぜたり、巻いたり詰めたり何でも来い! な日本人に愛される食材、油揚げ。カリカリの揚げ焼きにして上にのせるだけ、ポテサラやひじきなど定番のおかずの中に入れるだけでも一味違った美味しさに。安くて手軽で簡単においしく食べられる油揚げレシピが満載です。

### 「鬼平舌づつみ」

文藝春秋(編) 596.2

元祖グルメ小説! ? 食通として名が通っていた時代小説作家の池波正太郎。「鬼平犯科帳」に出てくる料理も、口の中にじわっと旨みが広がってきそうなものばかり。そんな作品に魅せられた熱狂的鬼平ファンの料理人が集って作った「えもいわれぬ」絶品料理をご紹介します。

## イラストのおいしい!

### 「京都いとお菓子。」

谷千佳世(著) 588.3

京都の日常のお菓子をやさしい色使いのイラストで紹介しています。肩肘張ったお上品な京菓子ではなく、気軽に素朴なほっこりお菓子にうっとり。出町ふた

ばの豆餅に梅園のみたらし団子、六曜社地下店のドーナツ...

食べたくなくなったから買いに行きましよう。

### 「シノダ課長のごはん絵日記」

篠田直樹(著) 596

何年もの間、書き溜めていたランチ絵日記。見ながら書くのではなく、食べ終わった後、夜に思い出してじっくり描いていたそう。おいしさのエキスがぎゅっと濃縮されたかのようで、実物よりもおいしそうかもしれません。実物よりも、この絵を食べたい。

### 「ぐりとぐら」

ながかわりえこ(さく) エホン

子どものころに食べてみたかった憧れの食べものランキングがあれば、きっと上位に入ること間違いなし! 大きくてふわふわのホットケーキ! 大人になっても憧れる。みんなに愛されるおやつです。

### 「バルサの食卓」

上橋菜穂子(著) 596

綾瀬はるか主演ドラマで話題になった「精霊の守り人」シリーズ。原作中では、野性味あふれるけれどおいしそうでもたまらない料理がいっぱい。ファンタジー小説に描かれる架空の郷土料理を食べてみよう。

### 「みをつくし献立帖」

高田郁(著) 596.2

故郷の大坂を離れ、江戸で料理の道にはげむ女性を主人公にした人情時代小説「みをつくし料理帖」。料理の生まれる手順が丁寧に書かれたお話を読むにつれ、作中料理への憧れはつのるばかりです。